

11/29 工事説明会開催



さる 11/29 東京芸術センター天空劇場にて開催された工事説明会には、約100名の皆様にお越しいただきました。

当組合の事務局、コンサルタント、設計者、施工者より事業の内容および工事の施工計画についての説明をさせていただきました。

ご出席いただいた方からは、風環境の予測や工事に伴う騒音・振動、工事車両の台数、家屋調査の方法、アスベスト対策などについて、貴重なご意見・ご質問をいただきました。

特に風環境についてのご質問が多く、非常に心配されていることをあらためて認識しました。

当地区の計画では、風環境に配慮した取り組みを行い(下記参照)、現況の周辺の風環境の範囲内としてきました。

今後更なる防風対策をするべく、より高度な検討を行っていく予定です。

なお、万一、許容想定外の風環境が生じ、それが原因で損害が生じた場合は、責任をもって対応していく意向です。

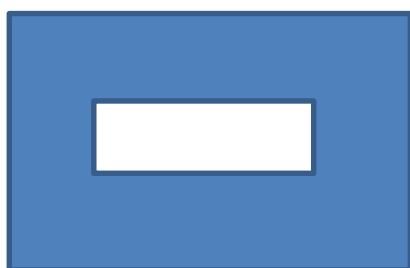
検討を行い次第、説明会を行う予定としています。



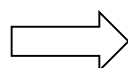
【特集】風環境についての

①計画建築物の風環境に対する配慮について

当地区の施設建築物は、高層部分の平面形状をプランの工夫等によりコンパクトにして、ビル風そのものが発生しにくい計画とするとともに、低層部分に張り出しを設けて墓石型形状としてビル風の低減を行っています。

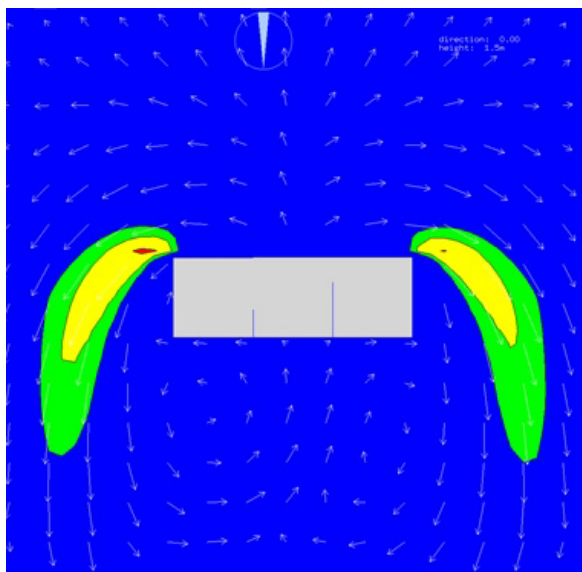


建物内部にポイド(吹抜け)を設けず平面形状を小さくしています。



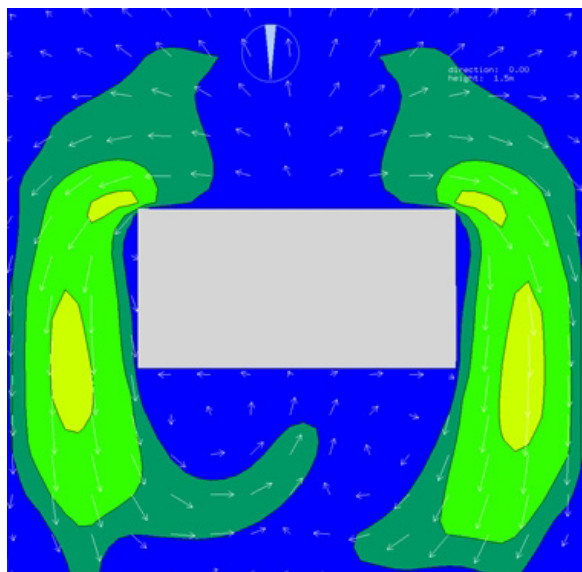
a.高層部分のみとした場合：

建物の両側に局所的に強い風速増加域が発生します。



b.低層部分に張り出しを設けて墓石型形状とした場合：

広範囲な部分において穏やかな風速増加域となります。



②村上式風環境評価尺度について

村上周三博士（東京大学名誉教授、元日本建築学会会長）らによる、強風の出現頻度に基づく風環境評価尺度です。

境評価尺度は、風の実測と住民の意識調査結果を分析して作成された風環境評価基準で、広く用いられている風環境評価の指標の一つです。

日最大瞬間風速の発生頻度を3風速段階において計算（日最大瞬間風速の超過確率）し、その結果から風環境を3つのランクに分ける方法を用いています。

各ランクは、具体的な空間使用用途の例と結び付けられており、日常体験と比較し易くなっています。

なお、ランク3の規定値を越えるレベルの強風の発生が予測される風環境をランク4とし、「好ましくない風環境」として評価しています。

建設後の当地区周辺の風環境は、ランク2以下と予測されて、土地利用の状況を踏まえると許容範囲内と考えられます。

強風による影響の程度		対応する空間用途の例	評価する強風のレベルと許容される超過頻度		
			日最大瞬間風速(m/s)		
			10	15	20
			日最大平均風速(m/s)		
			10/G.F	15/G.F	20/G.F
ランク1	最も影響を受けやすい用途の場所	住宅地の商店街	10%	0.90%	0.08%
		野外レストラン	37日	3日	0.3日
ランク2	影響を受けやすい場所	住宅街	22%	3.60%	0.60%
		公園	80日	13日	2日
ランク3	比較的影響を受けにくい用途の場所	事務所街	35%	7%	1.50%
			128日	26日	5日

表の見方の例) ランク1の用途では、日最大瞬間風速が10m/sとなる頻度が10%（年間約37日）と予想されます。

【問合せ先】

千住一丁目地区市街地再開発組合
足立区島根一丁目2番3号
TEL : 03-5541-3503